

講義名	資源論	授業形態	
担当教員	南木 睦彦	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限
		単位数	2
		履修開始年次	1年生
		ナンバリング	

主題と概要

この科目には三つの目標がある。一つ目は現在の資源問題の概要を学び、それを自分自身の言葉で説明できるようになることである。二つ目は、資源論に関わる様々な問題について対立する見解の双方の根拠を検討し、自分なりの判断を下せるようになることである。このため、リサイクルの功罪、クジラ・マグロの資源保護、日本の食糧自給率と自由貿易など、意見・見解・判断の対立がある問題を取り上げる。三つ目は形式の整ったレポートを作成できるようになることである。このため、1回の授業全てをレポートの書き方の講義にあてる。

到達目標

授業中に学ぶ主要概念を身につけており、それを用いて資源論の現代的課題について説明できる。資源論に関わる様々な問題のいくつかについて、対立する双方の見解を理解したうえで、自分なりの判断を下すことができる。形式の整ったレポートを作成することができる。

提出課題

平常点：毎回の授業終了後に簡単な理解度のチェックをし、また意見を求める。(レスポンスによる回答を予定)期末レポート課題：資源論に関連する問題について、レポートを作成する。詳細は授業中に説明する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の提出物については次の授業時に講評・解説する。期末レポートの提出期限は授業期間終了後になるので、Portalで講評・解説する予定である。

評価の基準

平常点（毎授業後の小レポート）毎回4点×15回＝60点、期末レポート40点とし、合計100点とする。
なお、平常点は「出席点」ではないことに注意すること。提出物の内容があまりに貧弱な場合はマイナス点とする場合があるし、非常に優れている場合は、4点を越えた得点とすることもある。1/3を越えて欠席した場合、期末レポートを提出する権利を失い、「放棄」の扱いになるので注意すること。

履修にあたっての注意・助言他

前提とする科目はないので、シラバスを読んで興味・関心を持った学生に履修していただきたい。

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考図書

.地図とデータで見るエネルギーの世界ハンドブック 単行本（ソフトカバー）、	ベルトラン・パレ	原書房	3080	4562057688
.図解入門業界研究 最新漁業の動向とカラクリがよくわかる本 単行本 .	勝川俊雄	秀和システム	1650	4798059218
.最新 日本の農業図鑑 単行本（ソフトカバー）、	八木 宏典（監修）	ナツメ社	1760	4816369724

その他

資料は毎時間配布する。参考図書として示したものの以外にも文献を随時紹介する。

授業計画

- 1 資源とは何か
- 2 コモンスの悲劇
- 3 エネルギー資源
- 4 金属資源
- 5 リサイクル - 1
- 6 リサイクル - 2
- 7 リサイクル - 3
- 8 レポートの書き方
- 9 水産資源と排他的経済水域 - 1
- 10 水産資源と排他的経済水域 - 2
- 11 水産資源と排他的経済水域 - 3
- 12 捕鯨問題
- 13 食料自給率と自由貿易 - 1
- 14 食料自給率と自由貿易 - 2
- 15 まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1回の講義について、学期ならびに文部科学省の大学設置基準においては、4時間の自己学習が必要とされている。予習は基本的には必要ないが授業前に10分程度前授業をふり返っておいた方が理解が容易になるかも知れない。授業中の配布資料に記入したり、またノートを作成するが、メモ・ノートの整理に授業終了後の復習として10分から20分程度は必要である。講義後のレスポンス課題に毎回10分～1時間程度が必要である。期末レポートの作成には平日から数日を費やすだろう。この他に、参考動画や参考資料を紹介するので、できるだけ視聴し、読んで欲しい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の到達目標と、滋慶科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力は次のように関連している。「授業中に学ぶ主要概念を身につけており、それを用いて資源論の現代的課題について説明できる。」「資源論に関わる見解の双方を理解したうえで、自分なりの判断を下すことができる。」「形式の整ったレポートを作成することができる。」のいずれもが、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の要素としての、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力と関連している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レスポンス回答について、次の時間にフィードバックする。授業内容・保々に保々に関する意見や質問についてもフィードバックする。

実務経験の有無及び活用

備考

このシラバスは2022年2月に対面での実施を前提に執筆している。コロナ禍と関連して、一時的に通学困難になった学生や、病氣や農事など理由のある欠席をした学生には、原則として対面授業を録画したものをオンデマンドで提供する予定である。具体的な方法は授業内で指示する。